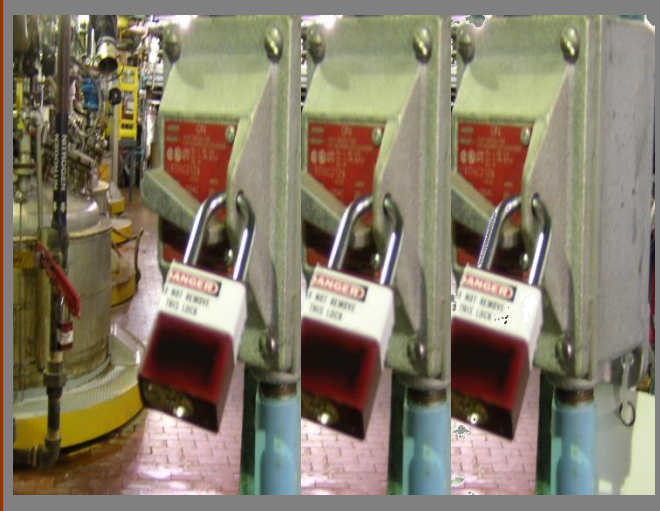


## 多すぎる起動・停止スイッチ

## 何が起こったか

2005年6月



PSID メンバー調べ: 自由検索 - 攪拌機

攪拌混合槽の清掃がシフトの夕勤担当に割り当てられた。管理者は作業長に”設備の隔離施錠”を完全に行うように依頼した。作業長はMCC(モーターコントロールセンター)のモーター起動装置を施錠して札を掛け、槽に近い起動停止スイッチボックスでスタートボタンを押して起動しないことを確認し、施錠して”危険 - 操作するな”の札を掛けた。そこで管理者は制限場所に立ち入る(入槽)許可書を発行し、二人の作業者がそのシフトの残り時間に槽に入って清掃を行った。

翌日の日勤シフトで制限場所立ち入り許可書の再発行が必要になった。起動停止スイッチボックスの起動ボタンを試した時にその攪拌機が動いた! 攪拌機のモーターは隔離施錠されていなかった!

## どのように起こったか

あなたが想像したことよりずっと簡単なことだった。隔離施錠が勝手に外れたのか? いや、別のモーターに隔離施錠がされていたのだ。起動装置にその攪拌機の表示がされているのにどうしてそうなるのか? そして最初に起動ボタンをテストした時にその攪拌機は何故起動しなかったのか?

いきさつはこうだ。数ヶ月前に攪拌機モーターは大型のものに取り換えられた。大型にしたのでモーター起動部品を大きくして配線する必要が生じた。”古い”システムはプラントがいつかまた必要とするかも知れないと撤去されなかった。その代わりに、新しい起動停止のスイッチボックスは槽の近くに設置された。実際は、旧スイッチボックスの右隣に設置された。つまり、旧スイッチボックスは槽近くの支柱のフランジ部にあり、新しいスイッチボックスは同じ支柱のウェブ部にあった。専門技術者(作業長)がそのシステムの隔離施錠と試験を行った時には、結線されていなかった”古い”システムを試験していた。”新しい”システムは未だ生きていたのだ!

## あなたにできること

- ▶ 書いてあるように全て安全手順を踏むこと。ショートカットをせず、あなたの責務を他の誰かにさせないこと。
- ▶ 自分の部署での変更が遅れを取らないこと。何が変更され、その変更が自分の仕事にどのように影響するかを知ること。
- ▶ 変更管理の手順では、全ての不使用機器は使用されている機器と混同されないように表示されているか確認すること。
- ▶ 不確かなことがある時はいつでも電気配線を外すことを考慮すること。
- ▶ 特に安全が関わるところは、確認と再確認をすること。その場を見回せ。何かいつもと違ってないか?
- ▶ 自分の安全は他人と自身の個人行動に拠っていることを忘れないこと。他人の言葉に自分の命を賭けないこと。安全チェックは自分で確かめること。

**安全確認する時は、それが正しい機器かを確かめよ!**